

若者の“たまり場”づくりを地元が手助けすることで生まれた新しい観光
—埼玉県北葛飾郡鷺宮神社における「アニメ・オタクの聖地巡り」—

埼玉県鷺宮神社が、アニメ「らき☆すた」ファンの聖地として数多くの若者を集めている。さらに、“聖地巡礼の若者”が奉納する“痛（イタ）絵馬”を見物するために一般の観光客も来訪するようになった。

若者が鷺宮神社に集まるようになったきっかけは、漫画「らき☆すた」アニメ化に際して、オープニングに鷺宮神社らしい背景が描かれたことにある。そして、「あの神社はどこだ」という疑問がインターネット上を駆けめぐり、話題が話題を呼び、そのモデルとして特定されたのが鷺宮神社だった。

間もなく地元では見慣れない若者が神社に少しずつ集まり出した。これに興味を持った町の人たちが、いつしか彼らに話しかけ、その理由を知ることになる。そこから町の人たちとアニメ・ファンとの交流が自然に始まり、ファンたちが来訪記念のグッズや神社の祭礼に自分たちが担げる御輿を彼らが欲しがっていることがわかる。そうした要望の実現へ向けて、町の人たちが手助けする。そんなことが続くうちに来訪する若者の数は増え、神社を離れて町中の飲食店などへと行動範囲が広がる。町の商店主たちも彼らを受け入れ、若者にとって居心地の良い“たまり場”が、神社の境内から町へと広がることになった。

マス・メディアが提供した話題をインターネットが広げるのがこの時代
—宮城県石巻市 猫の島「田代島」を賑わす“たれ耳ネコのジャック”人気—

宮城県石巻市の田代島は、猫の島として話題を集めている。島の中心部の猫神社では、猫は神に祀られ大切にされている。人の数よりも、猫の数の方が多いという。

こんな島に、片耳が垂れた猫の“ジャック”がいる。この“たれ耳ジャック”のことを島の民宿がブログで紹介した。このブログが一部で話題を呼び、その話を聞きつけたテレビが“ジャック”を番組に取り上げた。それから間もなく、“たれ耳ジャック”の噂がインターネット上を駆けめぐった。それを観た若者が島を訪問し、自分たちで撮った“たれ耳ジャック”のビデオ映像を今度はインターネットに流す。そうしたことが度重なるうちに、数多くの猫が我が物顔で暮らす島そのものへと話題が広がった。まさしく、テレビのようなマス・メディアが火を灯し、それをインターネットが大いに焚きつけるという、いかにも現代風の情報流通パターンの典型的な事例である。

鷺宮神社の事例においても、アニメ化されてテレビに映り、それがインターネット上に大きな話題を提供することになった点では、まったく同様の経緯がみられる。